

東大推薦・ 京大特色入試を探る

2013年3月、東京大学が推薦入試（現・学校推薦型選抜）を、京都大学が特色入試を、それぞれ2016年度入試から導入することを公表しました。

東西を代表する国立大学の入試改革は、当時進められていた高大接続改革——すなわち、高校教育、大学教育、大学入学者選抜が一体となって「学力の3要素」を育成・評価する改革の象徴と捉えられ、教育関係者や高校生の大きな関心を集めました。

これらの選抜方法で入学した学生は、一般選抜で入学した学生とはどのような違い・共通点があるのか。また、入試改革が大学教育に、あるいは両大学に多くの合格者を輩出する高校の教育にどのような影響を与えたのか。

導入発表から10年を機に、両大学と4高校の先生方に振り返っていただきました。

Contents

- ▶ Part1 大学インタビュー…………… p26
 - 東京大学 学校推薦型選抜の今
 - 京都大学 特色入試の今
- ▶ Part2 高校インタビュー…………… p34
 - 秋田県立秋田高等学校
 - 渋谷教育学園渋谷中学高等学校
 - 開明中学校・高等学校
 - 京都府立洛北高等学校
- ▶ Part3 まとめに代えて…………… p38

※本特集では、誌面の都合上、「東京大学学校推薦型選抜」を「東大推薦」、「京都大学特色入試」を「京大特色」と略している場合があります。

選抜概要

東京大学 学校推薦型選抜

募集人員・単位

計100人程度（入学定員の3%）
一般選抜の科類別募集とは異なり学部別（医学部は学科別）に募集

基本方針

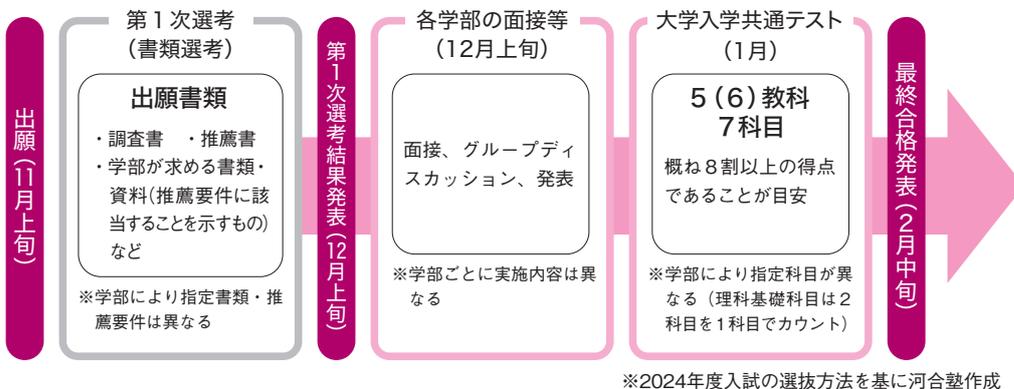
（学生募集要項より編集）

- ・学部学生の多様性を促進し、学部教育の更なる活性化を図ることに主眼を置く
- ・総合的な教育課程に適応しうる学力を有しつつ、教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、もしくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ学生を求める

推薦可能人数

1 高校4人まで（男女は各3人まで）

選抜の流れ



2023年度 入試結果

志願者253人、最終合格者88人、倍率2.9倍

※倍率＝志願者数÷最終合格者数

京都大学 特色入試

募集人員

計172人（入学定員の6%）

試験実施方式

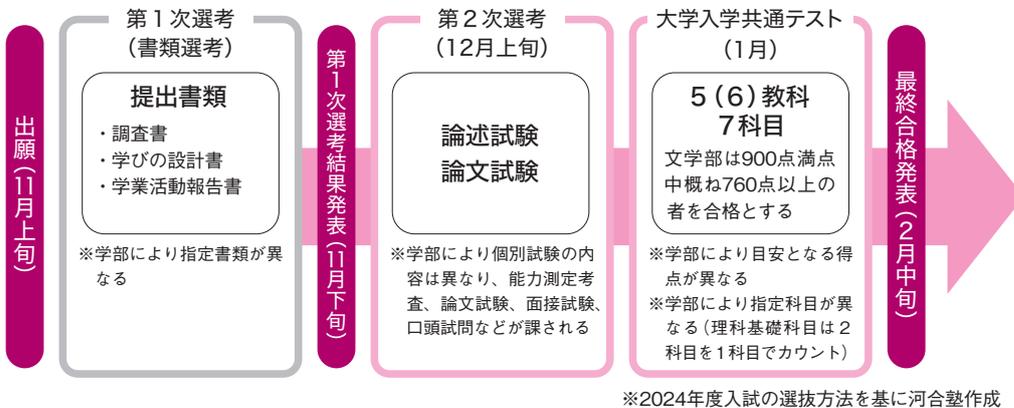
学校推薦型選抜 | 経済・医（医）・工学部
総合型選抜 | 総合人間・文・教育・理・医（人間健康科）・薬・農学部
一般選抜後期日程 | 法学部

基本方針

（学生募集要項より編集）

- 高大接続と個々の学部の教育を受ける基礎学力を重視し、
- ①高等学校での学修における行動と成果の判定、
 - ②個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力の判定
- を行う

選抜の流れ（例 文学部） スケジュール・選抜方法は試験実施方式・学部により異なる



2023年度 入試結果

志願者896人、最終合格者135人、倍率6.6倍
（後期日程の法学部を除くと志願者486人、合格者113人、倍率4.3倍）

※倍率＝志願者数÷最終合格者数

※東京大学・京都大学公表資料を基に河合塾作成
※詳細な情報は各大学のホームページを参照ください

Part.1 大学インタビュー

東京大学 学校推薦型選抜の今



自分の興味・関心に 一生懸命取り組んだ生徒が出願 高校の先生は大学と高校生の 大切な架け橋

→ Point

- ✓ 学修目的が明確で自分のテーマを持っている生徒が合格
- ✓ 高校の先生による受験の勧めが生徒の背中を押す
- ✓ 活動的で学問の広がりを楽しむ学生が多い

▶ 高校時代に一生懸命に取り組んだテーマを持つ

東京大学は学校推薦型選抜^(注)を2016年度入試より導入している。そして、導入から6年目となる2021年度入試以降、各高校から推薦できる人数を男女1人ずつから男女各3人（学校全体では最大4人）としたことで志願者数は200名を超え、直近の2023年度入試では253名が志願した<図表1>。

東京大学に推薦入学する学生にはどのような特徴が見られるのだろうか。学校推薦型選抜で入学した学生（以下、推薦生）の入学後の学修状況等については、高大接続研究開発センターが継続的に調査を行っている。

高大接続研究開発センター入試企画部門の高橋和久特任教授は「一番特徴的なのは、高校時代、興味・関心のあることに一生懸命取り組んだということです。また、一般選抜で入学した学生の多くは、幅広く学んでから専門を決めたいと言いますが、推薦生の場合は入学の段階で学びたいことが明確です。学生によっては行きたい研究室まで意識しています」（以下、発言者は同じ）と話す。また、「高校時代から自分のテーマを持っている学生だとイメージしていただくとよいでしょう」と話し、さらに「高校の時に自ら関心のあることについて発信し

ている経験もありますので、その点ではコミュニケーション力が高かったり、自ら積極的に動くという様子が見られたりもします」と話す。

なお、出願に当たっては活動等を示す根拠資料が必要となるが、「コンクールなどでの受賞歴は必須というわけではありません。コンペティション等で優秀な成績を取っていなくても合格している場合もあります。高校の先生方は受賞の有無等で出願資格をご判断いただく必要はありません」と話す。「受賞歴があっても不合格となる方もいれば、そのような経歴なく合格する方もいます。受験生が自身の興味・関心のあることに、どれだけ意欲を持って深く考えているかを見ている入試だと私は理解しています。推薦生は受賞歴がなくても、高校の先生方が意欲を認めるような何かは確実に残しています。その意味で、高校内での先生方による日々の観察は非常に重要だと思っています」と高校の先生の関わりの重要性を指摘する。

▶ 出願には高校の先生の関わりが重要に

推薦生へのインタビューも多く行っているが、高校時代に先生からの声かけで出願につながったと答える学生

(注) 東京大学 学校推薦型選抜 ホームページ：https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_26.html

図表1 令和5(2023)年度 学校推薦型選抜 志願者数・合格者数

(人)

年度	学部・学科	法学部	経済学部	文学部	教育学部	教養学部	工学部	理学部	農学部	薬学部	医学部 医学科	医学部 健康総合 科学科	計											
	募集人員	10人程度	10人程度	10人程度	5人程度	5人程度	30人程度	10人程度	10人程度	5人程度	3人程度	2人程度	100人程度											
令和5 (2023)	志願者数	14	8	18	19	33	75	48	21	3	13	1	253											
		男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女										
	7	7	4	4	8	10	7	12	15	18	52	23	39	9	4	17	2	1	4	9	0	1	142	111
	第1次選考 合格者数	14	8	14	12	14	62	24	21	3	7	1	180											
		男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
	7	7	4	4	6	8	3	9	9	5	42	20	19	5	4	17	2	1	2	5	0	1	98	82
最終 合格者数	8	7	8	4	4	34	8	8	2	4	1	88												
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	
4	4	4	3	4	4	1	3	3	1	24	10	7	1	3	5	2	0	1	3	0	1	53	35	

※「学校推薦型選抜 志願者数・合格者数」(<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400202375.pdf>)より

も多いようだ。その点でも先生の関わりは重要だという。一方で、出願に際して先生の理解を得るのに苦心したという声もあり、それには次の2つのケースがあるそうだ。1つは学校推薦型選抜、一般選抜と両方の準備を進めるのは生徒の負担が重い、学校推薦型選抜を勧めないケースだ。そして、もう1つは、出願書類に記載するための生徒の活動が、先生ご自身の専門とは異なるため、指導が難しいことを理由とするケースである。しかしながら、受験生の負担は理解しつつも「志望理由を書く中で、自分が学びたいことが明確になったからこそ、現在の大学生活を楽しめていると答える推薦生が多くいます」と目標の明確化が大学で学びを進めるためのコンパスとなっていると言う。また、出願のサポートや指導について「多くの推薦生が、出願の時にありがたかったサポートとして、フィードバックを先生からもらったことを挙げます。自分が学びたいことを他者にわかりやすく伝える練習になったとのこと。専門分野の知識が必須なわけではないのです」と話し、専門分野等に関わらず、出願には先生の関わりが大切だとのことだ。

さらに、東京大学の学校推薦型選抜が求めるポテンシャルを持った高校生はもっと多いのではないかと考えている。「日本の高校教育の文化の中では、自分のやりたいことを考える目線を持ちながら授業を受けている高校生はそれほど多くはありません。ただ、その中でも学校の内外で自分の興味・関心がある活動に取り組んでいる生徒はまだ多いと思います。以前に比べると、高大

連携や地域における学びの場も増えています。先生方から見て、やりたいことが明確な生徒だと思ったら、ぜひ背中を押してほしい」と期待を寄せる。

▶ 1~2年次は学問的な広がりを楽しむ学生が多い

入学後の推薦生はどのような大学生活を送っているのだろうか。「かなり活動的な学生が多い印象があります。学びたいことが明確なので、関係するところに自分から出かけて行ったり、大学の講義も自分の関心のある分野を中心にかなり幅広く履修したりしていて、単位にならない講義に出ている学生も多くいます。学外のプログラムでも積極的に参加している印象があります」と話し、活発さはかなり際立っているようだ。また、「学内の先生方からも、コミュニケーション能力、積極性、学びに対する関心などでは非常に高く評価されています」と話す。

東京大学には多くの体験プログラムが用意されており、「求めれば、推薦生以外でも多様な体験ができる環境にあります」と恵まれた学修環境にある。推薦生はそうした環境を積極的に活用しており、中にはプログラムを通じてつながった先生の紹介で、海外の著名な研究者に会いに行った学生もいるそうだ。また、推薦生同士の学部や学年を超えたつながりもあり、コミュニティも形成されている。「推薦生はそれぞれ特定の分野などに強い関心を持つ者同士なので、少し話をしただけで意気投合するところがあります」とのことだ。

ところで、東京大学は入学後に幅広いリベラルアーツ教育を行い、「進学選択」を経て、専門を学ぶのは3年次からとなる、いわゆるレイト・スペシャライゼーションがカリキュラムの特徴の1つだ。学びの目的が明確な推薦生にとっては合わないようにも思われるが、どうだろうか。「学部による違いもありますが、専門を学ぶためには、できるだけ裾野を広げておいてほしいという考え方が基本です」と専門科目の履修時期については、一般選抜での入学者と比べて、大きな違いはないそうだ。ただ、推薦生には「早期履修制度／早期聴講制度」や「アドバイザー教員制度」といった、専門科目に早く触れる機会や、大学教員との面談機会は用意されている。1～2年次の状況について、「1～2年生に話を聞くと、多くが、今の時期には学部に進んだ後ではできない幅広いことを学びたいと言います。それぞれの学問は異なる領域でも結構つながるところがあるものです。1つの領域の視点だけではなく、他領域も含めた広い視点で見ると気づくこともあります。推薦生はそのことを楽しんでいるところが特徴です」と話す。

▶ 説明会では推薦生と交流ができる

東京大学の学校推薦型選抜の説明会は複数回実施されており、ホームページに案内が掲載されている。「説明会をぜひ、生徒さんに知らせていただければと思います。そこでは現役の推薦生と会えますので、話をすれば自分にとって学校推薦型選抜が向いているかどうかがよくわかると思います」と推薦生との交流を勧める。日程的に

説明会に参加できなくても、一般には公開されていないが、高校を通じて申請すると推薦生の動画アーカイブが見られるそうだ。

また、説明会への参加は高校生活について考える機会にもなるという。「高校生活は勉強しか選択肢にないという生徒さんもいるかもしれませんが、でも、自分の好きなことを追求する生き方もあることを知ってほしい。それは受験勉強を捨てるということではなく、自分のやりたいことをベースに進路を決めるというチョイスがあり得ることを知ることで。それだけでも説明会に参加する価値はあると思っています」と語る。

入試日程は、12月に面接、その後大学入学共通テストを受けて、2月中旬の前期日程の約10日前に合否が発表されるスケジュール<図表2>だ。不合格の場合、気持ちの切り替えがなかなか難しいだろう。ただ、「出願の際、志望動機を書きますが、これまでの取り組みと、これから先の取り組みを言語化したことで、学ぶ目的をより強く意識できたという推薦生は多いです」と話し、出願自体が自分を見つめ直す有意義な経験になるという。また「面接は自分がこれまで真剣に考えてきたことを大学の先生と真剣に議論できて楽しかったと述べる推薦生もいます」と話す。確かに高校生にとって研究者との真剣なやり取りは刺激的だろう。ただし、「面接する側は、相手が高校生で研究者同士の議論ではないことは十分注意しています」と一定の配慮はあるようだ。

最後にアドミッション・ポリシー<図表3>や東京大学憲章にあるように、「世界的視野を持った市民的エリート」を育成することが、東京大学が社会から負託され

図表2 令和6(2024)年度 学校推薦型選抜のスケジュール(抜粋)

日程	項目
2023年 11月7日(火) 17時	・出願締め切り 高等学校による出願(提出書類・資料のアップロード)
12月1日(金) 15時	・第1次選考結果発表(本学ウェブサイトに掲載)
12月9日(土)・10日(日)	・面接等実施
2024年 1月13日(土)・14日(日)	・大学入学共通テスト(本試験)実施
2月13日(火) 17時以降	・最終合格者発表(本学ウェブサイトに掲載)

※「令和6(2024)年度 東京大学学校推薦型選抜 学生募集要項」(<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400218905.pdf>)を基に河合塾作成

た使命であることに触れ、「社会から期待されている卒業生を輩出するためにカリキュラムを編成し、そのカリキュラムに相応しい入学者を求めるためにアドミッション・ポリシーがあります。東京大学のアドミッション・

ポリシーにご賛同いただければ、ぜひ、ご推薦をいただきたいと思います。1回限りのペーパーテストよりも、生徒のことをずっと見てきた高校の先生方に架け橋となっていたきたいです」と言葉に力を込めた。

図表3 令和6(2024)年度 学校推薦型選抜のアドミッション・ポリシー

I 東京大学学校推薦型選抜のアドミッション・ポリシー

1 東京大学の使命と教育理念

1877年に創立された我が国最初の国立大学である東京大学は、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野を持った市民的エリート」（東京大学憲章）を育成することが、社会から負託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで本学が目指すのは、自国の歴史や文化に深い理解を示すとともに、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識を基盤に、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、市民としての公共的な責任を引き受けながら、強靱な開拓者精神を発揮して、自ら考え、行動できる人材の育成です。

そのため、東京大学に入学する学生は、健全な倫理観と責任感、主体性と行動力を持っていることが期待され、前期課程における教養教育（リベラル・アーツ教育）から可能な限り多くを学び、広範で深い教養と更に豊かな人間性を培うことが要求されます。この教養教育において、どの専門分野でも必要とされる基礎的な知識と学術的な方法が身につくとともに、自分の進むべき専門分野が何であるのかを見極める力が養われるはずで、本学のカリキュラムは、このように幅広く分厚い教養教育を基盤とし、その基盤と有機的に結びついた各学部・学科での多様な専門教育へと展開されており、そのいずれもが大学院や研究所などで行われている世界最先端の研究へとつながっています。

2 期待する学生像

東京大学は、このような教育理念に共鳴し、強い意欲を持って学ぼうとする志の高い皆さんを、日本のみならず世界の各地から積極的に受け入れたいと考えています。東京大学が求めているのは、本学の教育研究環境を積極的に最大限活用して、自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持った学生です。何よりもまず大切なのは、上に述べたような本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。そうした意味で、入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

3 学校推薦型選抜の基本方針

東京大学の学校推薦型選抜は、学部学生の多様性を促進し、それによって学部教育の更なる活性化を図ることに主眼を置いて実施します。実施に当たっては、日本の中等教育における先進的取組を積極的に評価し、高等学校等の生徒の潜在的多様性を掘り起こすという観点から、日本の高等学校等との連携を重視します。

学校推薦型選抜に当たっては、本学の総合的な教育課程に適応しうる学力を有しつつ、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、若しくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ志願者を求めます。東京大学は、学校推薦型選抜で入学した学生が、東京大学、ひいてはグローバル社会の活力の源として活躍することを期待しています。

※「令和6(2024)年度 東京大学学校推薦型選抜 学生募集要項」(<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400218905.pdf>) より

京都大学 特色入試の今



※京都大学提供

能力・意欲・志を評価する特色入試 入学後の学修意欲も高く 勉学に励む学生が多い

→ Point

- ✓ 課題や論述試験等では高度な読解力が求められる
- ✓ 合格者の約半数が女子
- ✓ 入学後の学修意欲が高い学生が多い

▶ 能力・意欲・志を多面的・総合的に評価

京都大学の特色入試^(注)は、2016年度入試から実施されている。ただ意欲を重視するだけではなく、大学入学共通テスト（以下、共通テスト）が課され、学部によって違いはあるが、基準としておおむね80%またはそれ以上の得点率を求める学部があるなど、かなり高い学力も求められている。また、学部ごとに、課題、小論文、論述試験、口頭試問や面接試験が課され、各学部での入学後の学修に対する適合力が判定される。

この他、提出書類として、高校在学中の顕著な活動歴を示す学業活動報告書や、入学後に京都大学で何を学びたいのか、卒業後にどういった仕事に就きたいのかなど、学ぶ意欲や志を記載する「学びの設計書」の提出が必須となっている学部が多い（2024年度入試の法学部、理学部では提出不要）<図表1>。つまり、特色入試は基礎学力だけではなく、能力・意欲・志を多面的・総合的に評価する入試だといえる。入試方式も、総合型選抜として実施する学部もあれば、学校推薦型選抜として実施する学部もあり、法学部は一般選抜の後期日程として実施するなどさまざま。なお、法学部は2025年度入試

より学校推薦型選抜として実施する予定である。

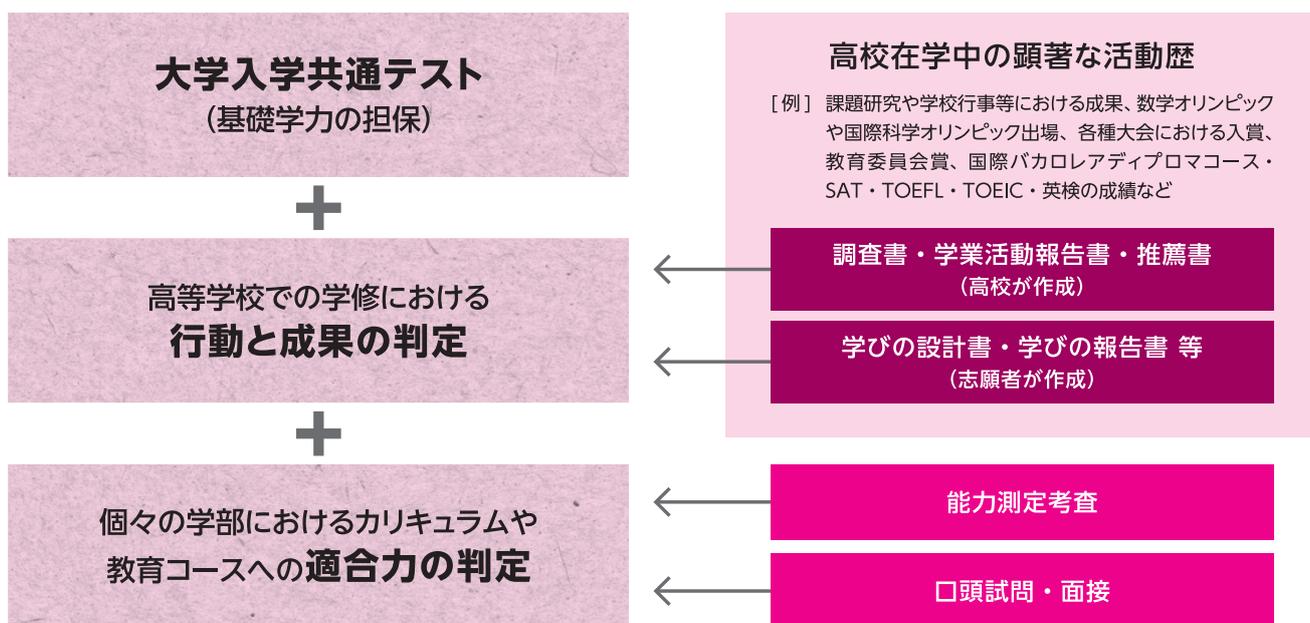
さらに、入学者の選抜方法にも学部の個性と特色がある。一般選抜の個別試験に該当する第2次選考も、入学後の各学部での学修に対する適合力を判定するため、学部によってさまざま<図表2>。

たとえば、文理融合を掲げる総合人間学部では、特色入試で志願する受験生にも文理融合的な思考が要求される。総合人間学部の岩谷彩子教授は「第2次選考では文系総合問題と理系総合問題の両方で得点できないと合格は難しいです。配点がそれぞれ100点ですので、文系の受験生から見ると理系総合問題のウェイトが高く感じられるかもしれません」と話す。また、「理系の受験生でも、理系の分野が得意で、さらに国語や英語、地歴・公民分野にも関心がある学生が入ってきます」と学部の目的に合った学生が入学していると話す。総合人間学部は、新たな学問の創出をめざすという学部の目的があるが、特色入試にチャレンジする受験生は、既存の学問分野を基盤としつつも、自分なりに新たな学問を創っていかうという意志が強いそうだ。岩谷教授も「特色入試で入ってくる学生は、明確なビジョンを持っています」と話す。

(注) 京都大学 特色入試 ホームページ: <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/tokusyoku>

図表1 特色入試の概要

京都大学特色入試は **能力** **意欲** **志** を **多面的・総合的に評価する** 大学入学者選抜です



※「京都大学特色入試 ポスター」(https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/tokusyoku_2023-poster-f8bbb3cb27bd2d9224fba0ce16153e10.pdf) より

求められる高度な読解力と表現力

他の学部の試験でも高いレベルが求められる。薬学部は、科学に関する英文と日本語の資料をもとに論述する形式だが、かなりの量の英文を読まなくてはならない。教育学部では、課題と口頭試問が課され、資料集を読んだうえで課題に解答するのだが、その資料数もかなりの量になる。高大接続・入試センター長の村上章特定教授も「相当な読解力が求められていることは明らかです。時間内で解くだけでもかなり大変だろうと思います」と話す。岩谷教授も「かなりの読解力が求められ、短い時間で大量の情報を消化し、それをアウトプットすることが求められています。通常の受験勉強では対応が難しいのではないのでしょうか」と特色入試のポイントを語る。

このほか、理学部では数理科学入試と生物科学入試の2方式があるが、数理科学入試で課される数学に関する能力測定考査は「試験時間が4時間もあり、問題の難度も非常に高い」(村上センター長) とのことだ。また、

工学部は情報学科を除き提出書類と共通テストで判定され、個別試験に当たる試験は実施されない。この場合、提出書類の重みが増すことになる。工学部は推薦要件の1つとして諸活動で「顕著な実績をあげた者」をあげており、ほぼ全学科で「顕著な活動実績の概要」の提出が必須だ。村上センター長も「一般選抜とは異なり、特定の内容に特化した実績を持つ学生を受け入れることができるでしょう」と特色入試の利点について語る。

こうした提出書類のうちでも「学びの設計書」は大きな意味を持つ。岩谷教授は「高校の先生方が、ご指導に苦心しているという話は聞いています」としたうえで、「受験生が自分の経験をいかに言語化できるかが大切ですし、『学びの設計書』を書くことそのものが、大学入学後にどういう学びをしたいのかという目的意識にもつながっています」と重要性を説く。村上センター長も「特色入試は意欲を問うのですから、評価する教員はその観点で見えています。それに加えて、意欲やその背景となるバックグラウンドがきちんと書けているかという文

章力も大切です」と2つの観点が重要になるという。

ただ、「学びの設計書」は提出書類の1つであり、共通テストや論述等の試験が課されるため、「学びの設計書」だけでは合格できない。さらに、第2次選考まで通過したとしても、判定に用いられる学部では、共通テストで求められる基準に満たないと不合格になる。ただ、文学部の場合は、第2次選考で「学びの設計書」に関する論述試験が課されるため、自ずと他学部とは重みが異なってくるだろう。

▶学部間で異なるものの合格者の半数は女子

特色入試の特徴の1つとして、合格者に占める女子の比率が高いことがあげられる<図表3>。一般選抜では、

女子の合格率は約20%にとどまるが、特色入試では、年度によっては50%を超える年度もある。村上センター長も明確な理由はわからないとしながらも、「本学の女子学生比率は22%~23%と、高い方ではありません。特色入試が女子学生比率の向上に貢献しているといえるでしょう」と話す。

ただ、学部による状況の違いも見られる。2023年度入試では、総合人間学部、経済学部理系型入試、理学部数理科学入試などでは合格者の内、女子は0名である。一方、医学部医学科は最終合格者の2名とも女子で、工学部や農学部にも女子の合格者はいるため、理系学部での合格が難しいという訳ではないようだ。

京都大学も女子高校生を対象としたさまざまなイベント等を実施して努力を重ねているが、他大学も含め、一

図表2 学部・学科・コース別の選抜概要

学部・学科・コース		募集人員	選抜方法	試験実施方式	提出書類	
総合人間学部		5名	書類審査、能力測定考査(文系総合問題、理系総合問題)、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
文学部		10名	書類審査、「学びの設計書」に関連する論述試験、論文試験、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
教育学部		6名	書類審査、課題、口頭試問、共通テスト	総合型選抜	調査書、学びの報告書、学びの設計書	
法学部		20名	書類審査、小論文、共通テスト	後期日程	調査書	
経済学部		文系型入試 15名	書類審査、共通テスト	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動・学習実績の概要、(文系型入試のみ)英語民間試験受験者成績書または合格証明書	
		理系型入試 10名				
理学部		数理科学入試 5名	書類審査、数学に関する能力測定考査、口頭試問、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの報告書	
		生物科学入試 5名	書類審査、口頭試問、共通テスト			
医学部	医学科	5名	書類審査、口頭試問、面接、共通テスト	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書、TOEFL iBTスコアレポート、特色事項に関する資料	
	人間健康科学科	先端看護科学コース	20名	書類審査、論文、面接、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書
		先端リハビリテーション科学コース(先端理学療法学講座)	5名			
		先端リハビリテーション科学コース(先端作業療法学講座)	5名			
薬学部		薬科学科 3名 薬学科 3名	書類審査、論文、面接、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書、英語民間試験受験者成績書または合格証明書	
工学部		地球工学科	4名	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書	
		建築工学科	3名		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要	
		物理工学科	5名		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要	
		電気電子工学科	7名		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要	
		情報工学科	3名		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要	
		工業化学科	10名		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要	
農学部		資源生物科学科	3名	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書、英語民間試験受験者成績書または合格証明書	
		応用生命科学科	4名		調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
		地域環境工学科	3名		調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
		食料・環境経済学科	3名		調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
		森林科学科	7名		調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
		食品生物科学科	3名		調査書、学業活動報告書、学びの設計書、英語民間試験受験者成績書または合格証明書	
合計		172名				

(注)工学部「工業化学科」は令和6年4月より「理工化学科」へ名称変更します。
 ※「京都大学特色入試 ポスター」(https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/tokusyoku_2023-poster-f8bb3cb27bd2d9224fba0ce16153e10.pdf)より

図表3 京都大学入試 合格者数(人)・女子比率

年度	特色入試			一般選抜			特色入試 女子比率	一般選抜 女子比率
	男	女	計	男	女	計		
2016	56	26	82	2206	622	2828	32%	22%
2017	49	71	120	2165	578	2743	59%	21%
2018	64	64	128	2148	585	2733	50%	21%
2019	72	66	138	2178	544	2722	48%	20%
2020	76	53	129	2147	578	2725	41%	21%
2021	73	67	140	2156	569	2725	48%	21%
2022	55	62	117	2179	564	2743	53%	21%
2023	68	67	135	2107	602	2709	50%	22%

※京都大学公表資料等を基に河合塾作成

一般的に理工系の数学系、物理学系、機械系、電気系学部での女子学生比率は高くはない。村上センター長も『入学後に少数派になるかも』といった誤解や漠然とした不安があるのかもしれない』と話す。

勉強熱心で好成績の背景には学力への意識も

入学した学生について、選抜方法が一般選抜だったのか特色入試だったのかは、制度上特に扱いは変わらない。また、特色入試で不合格の場合に、一般選抜を受験する受験生も多いため、特色入試の受験生は一般選抜の準備もしており、入学後に一般選抜で入学した学生と目立った違いは見られないとのことだ。それでも、あえて傾向などを聞くと、村上センター長は「一般的な印象」と断ったうえで、「一般選抜の個別試験を受験していないことから、入学時に同級生と比べて、学力・学業面での多少の不安があるようです」という。共通テストでは求められた得点をクリアしているものの、それだけでは学力担保という点で不安に感じる部分もあるようだ。ただ、その意識がポジティブに作用しているケースも多いという。村上センター長は「不安に思う意識が逆に働いて、すごく勉強するのです。だから成績も良い。入学したときから意識して頑張っている学生が多いという印象です」と話す。熱心に勉学に励むため、成績も良く、専門教育に入ってから継続するため、大学院進学に結びつくことも多かったと振り返る。岩谷教授も「総合人間学部でも、卒業要件の単位数以上に履修する意欲的な学生も見られます」と話す。

理系学部の大学院進学率は一般選抜での入学者と同様に高い

大学院進学率は、文系学部は一般選抜での入学者よりやや低いそうだが、理系学部については、一般選抜での入学者と変わらず高い進学率となっている。医学部、薬学部などでは、学生募集要項の求める人物像で大学院への進学についての記載があることも関係しているだろう。また、文理融合の総合人間学部も大学院進学率は高い。ただ、特色入試での入学者全体を通してみると、高い意欲を持って入学してくる分だけ、将来のビジョンが明確になっており、できるだけ早く社会で活躍したいと考える学生も多く、それが大学院進学率にも表れていると考えることもできる。

こうした在学中あるいは卒業後の活躍など、特色入試における成果について岩谷教授は「社会に出てから、自分の得意を生かし、新しい分野に挑戦していく学生も多いと思います。そのため、学士課程の4年間での活動だけではなく、もっと長いスパンで見えていく必要があるでしょう」と語る。

確かに、特色入試初年度の入学者が大学院博士課程に進学した場合、まだ在学中である。現在の大学教育は、より学生を育む方向に変わってきている。特色入試もそうした学生を育む仕組みの1つとして、長い目で成果を見ていく必要があるだろう。

Part.2 高校インタビュー

東大推薦

秋田県立秋田高等学校

進路指導主事 土門高士 先生

総合型・学校推薦型対策室 室長 遠藤金吾 先生

チャレンジ精神や興味・関心が重要 対策室を設け指導にあたる

合格する生徒の特徴

秋田県立秋田高等学校は、2023年で創立150周年を迎える、県を代表する進学校である。

県の教育専門監で進路指導主事の土門高士先生は、東大推薦について「導入当初は驚きましたが、今では、東大の求める研究ができる人材をしっかりと見極め、地方出身者や女子が少ないといった偏りを是正していきたいという狙いを感じます。そういう意味では、地方にある本校でさまざまな経験をしてきた生徒には、チャンスではないかと思っています」と話す。

また、総合型・学校推薦型対策室室長の遠藤金吾先生は、「試験の形式を見ると、学力を担保するだけでなく、従来のペーパーテストだけでは測れないような能力を見る試験になっていると思います。これからの時代を切り拓いていくような、新しい人材を選抜する試験とし

ては良いものだと思います」と評価している。

合格者には、何にでも全力で取り組み、興味を持って学ぶ姿勢があるという。

「伝統的に自主性を重んじる校風があり、それが学校行事や勉強など、さまざまなことにチャレンジしていく生徒の姿勢につながります。基本的には、何にでも全力で、関心を持って面白がることのできる生徒が合格している印象です」（土門先生）

また、秋田高校では理系出身者からの合格者が多いが、自然科学系の活動実績を持ちながら、文学部での推薦合格を勝ち取った生徒もいるという。

「生物部で文献調査やディスカッションなど、研究に必要な活動に非常に秀でていましたが、本に関する研究をしたいということで文学部を志望しました。全国高等学校総合文化祭で上位入賞も果たし、見事合格しました」（遠藤先生）

指導のポイント

秋田高校では、総合型選抜や学校推薦型選抜に挑戦する生徒の指導を行う「総合型・学校推薦型対策室」を設置している。

「大学入試は全体として総合型選抜・学校推薦型選抜の募集定員を増やす傾向で、本校は、それが第1志望の進路であるならば、どんどん活用していく方針です。ただ、志望理由書などの指導はどうしても手間がかかり、3年生の担任が抱えるとなると、仕事量の面で厳しいです。そこで、3年生の担任を除いて、16名を校長に任命していただき、対策室を学校の分掌としています」（土門先生）

特に、東大推薦の志望者については、博士号教員^(注)である遠藤先生が担当している。

遠藤先生は、指導のポイントについて、「私の専門分

「総合型・学校推薦型対策室」とは？

- ・近年の入試傾向に合わせて2020年度から設置
- ・総合型・学校推薦型選抜で生徒を成長させることと、3年担任の負担軽減、教員の指導力の向上・継承が目的
- ・3年担任を除いた16名が担当

野とは違うテーマに関心がある生徒については、私も勉強しつつ、ご専門の先生にアドバイスをもらいながら進めています。生徒の成長が大学側に伝わるように、生徒の言葉を上手く引き出し、整理することが大切です」と語る。

また、日々の学校生活の重要性について、遠藤先生は「毎日が生徒の成長のための場であり、勝負の場であると感じて指導しています」と話し、土門先生も「どういう生徒が受かったかを先生も生徒も知っています。東大推薦合格者のイメージが共有できていることが毎年合格者を輩出している要因の1つではないでしょうか」と語ってくれた。

(注) 秋田県では、理数教育の充実をめざし2008年から博士号取得者の採用が行われている。

東大推薦

渋谷教育学園渋谷中学高等学校 進路部部长 高橋正忠 先生

学校推薦型選抜でゴールが変わる 原体験を掘り下げる指導を心がける

→ 合格する生徒の特徴

東京都にある渋谷教育学園渋谷中学高等学校は、例年一般選抜、学校推薦型選抜で東大合格者を輩出する進学校だ。

進路部部长の高橋正忠先生は、東大推薦について、「生徒たちの高校生活は、勉強だけで終わるものではありません。ペーパーテストで測れる学力は非常に重要ですし、元々東大の2次試験の問題はいわゆる教科学力だけで太刀打ちできるものではなかったとは思いますが、学力だけでなく学校生活で育まれた幅広い資質・能力も評価するような試験の実施は大きな変化だと思いました」と話す。

また、東大推薦は、合格後の学びのイメージを描くことにもつながっているようだ。

「学校推薦型選抜の場合は特に、何がしたいか、どこで学部で学びたいかを明確に表明した上で、面接試験で大学の先生とやり取りし、合格が決まります。となると、大学に入ってから意欲も違はずです。合格がゴールではなく、スタートになります。そういった意味でもとてもいい取り組みなのではないかと思います」

→ 指導のポイント

高橋先生の個人的な指導の枠組みとしては、「生徒には、ある課題に興味を持つようになった原体験があると思います。その原体験に加えて、課題に取り組むだけの資格の証明のようなものをセットで語ることが必要です。生徒が解決したいと考えている社会課題と生徒の中の原体験をつなぎ、その課題を解決に導く可能性を持っていることを証明する資格（成果）を提示させます。そのうえで解決に近づくために今後生徒が身につけるべき事柄と東大で得られる学びをつなげられれば、『あなたが東大に進学すべき理由』というところまで掘り下げられたということになるのだと思います」と話す。

合格する生徒は、英語ディベートや模擬国連などで、全国大会・世界大会レベルの成績を残した生徒が多いとしつつも、そういった実績はあくまで他者からの能力の証明にすぎない。その経験が自身に与えた意味や影響をいかに語る事ができるかのほうが重要だとのことだ。

「志望理由書や面接では、東大が求める学生像に照らして、どういう社会問題に興味を持っていて、将来何をしたいかを語る必要があります。そこで、自分の過去の取り組みについての他者評価と、これから関心を持って取り組む社会問題をどう繋げるかということを考えられることが重要になってきます」

また、志望者の学力については、「学校推薦型選抜の準備がうまくできると、モチベーションの向上につながり、共通テストのころには、学力もかなり伸びている印象があります」と、最後の伸びも目を見張るものがあるとのことだ。

なお、同校はSGHやWWLなどに指定され、社会科学系で活躍する卒業生も多い。そうした活動が生徒たちに身近なものとなっているため、文系学部への合格者が多くなっている。

また、「東大に限らず、学校全体として、面接指導等はクラス担任や学年を超えて担当します。たとえば、法学部と教養学部の志望者がいる場合には、社会科の先生に面接の練習を担当していただいています。長年の積み重ねの中で、コンセンサスがとれてきました」と学校全体での指導の体制が整ってきたと話してくれた。

東大を志望する理由

資格・証明
(コンクール・コンテストでの実績、客観的評価)

+

社会課題に興味を持った原体験

京大特色

開明中学校・高等学校 進路指導部長 重康学 先生

先輩たちの様子を見て受験を志望 学校でのプレゼンテーション経験が生きる

→ 合格する生徒の特徴

大阪府にある私立開明中学校・高等学校は、難関大合格者を多数輩出する進学校である。京大特色合格者は2年連続7名と、全国No.1の実績となっている。

進路指導部長の重康学先生は、京大特色が導入されたことについて、「当初は、どのような入試になるか想像が付きませんでした。数年経ち、特色入試は学力だけでなく、学びたい意欲や個々の能力を評価する方針だということがわかりました。知識一辺倒ではなく多様な観点から評価をしていただけるというのは、高校側としても歓迎しています」と語る。また、開明高校は学校行事等の体験を通じて、さまざまな能力を身につけることを意識しており、そういった面でも京大特色の方向性と合致するのではないかとのことだ。

→ 指導のポイント

志望者に対しては、担当が面接や出願書類の指導を行うが、専門的な知識が必要な場合には、教科担当の教員がフォローする。

「内容によっては、理数系や人文・社会科学の知識が必要になってくることもありますので、そのときには担任以外の教員も指導を担当します」

表 取り組みの例

弁論大会 (中1～中3)

- ・個人でテーマを設定
- ・クラス代表2名が本選(大会)へ
- ・スライド資料等は一切使用不可
- ・自らの言葉のみで主張し、表現力を競う

研究発表 (中3～高2)

- ・グループでテーマを設定
- ・クラスから1グループが本選へ
- ・本選上位3グループが文化祭で発表
- ・グループの協働力、プレゼンテーション能力が求められる

同校では、先輩たちの受験の様子を見て、自ら特色入試の受験を希望する生徒が少なくない。学校全体で理系選択者が多いこともあり、特色入試も理系での合格者が多い。また、特色入試に合格した生徒の特徴としては、基本的に学力の高い生徒が多かったとしつつも、重康先生は「志望する学部・学科に対して明確な目標を持っており、具体的に何をしたいかを考えている生徒が多かった印象です。さらに、それをうまく表現できるような力も備えていたと思います」と話す。

「たとえば、農学部合格した生徒は、環境問題に興味を持ち、研究発表などの課外活動に積極的に取り組んでいましたし、経済学部に進んだ生徒は、海外生活で貧困の現実を目の当たりにした経験から、世界の経済格差解消のための研究を深めたいと考えていました」

また、開明高校では、自分の考えを人前で表現したり、プレゼンテーションしたりする機会を多く設けている。直接的ではないものの、そうした学校での取り組みが特色入試にも繋がっているのではないかと話す<表>。

「中学に入った早い段階から、自分で表現し、人前でプレゼンテーションする機会を多く設けています。たとえば、中1～中3での弁論大会や、中3～高2での研究発表の場面です。研究発表では、グループでテーマを決めて研究を進め、予選を行ったうえで代表を決め、本選で上位となったグループが文化祭で発表しています。直接それが特色入試での合格にどれだけ結びついているかはわかりませんが、そういった素地はあるのではないかと思います」

また、「特色入試を受験する生徒たちは、大学主催の研究活動や文科省などの留学プログラムでの実績をアピールポイントとする生徒もいますが、学校での探究活動やクラブ活動での研究成果を実績とする生徒も少なくありません」と、学校での取り組みの大切さを語ってくれた。

京大特色

京都府立洛北高等学校 進路指導部長 戸田智和 先生

SSHの探究が特色入試につながり 指導では志望理由の言語化を助ける

→ 合格する生徒の特徴

京都府立洛北高等学校では、例年京都大学や大阪大学などの難関大への合格者が続けて出ている。

進路指導部長の戸田智和先生は、京大特色について、多様な選抜方法が行われることの是非は学校や教員によって意見が分かれるとしつつも、「導入当初は、出願要件が高く、結果的に学力上位層だけを狙った入試になるのではないかと懸念していました。現在は、京大の説明会等も聞き、特徴を持った生徒に来てほしいという意図を汲んでいます」と話す。

戸田先生は、特色入試で京大に合格した生徒の特徴として、「行動力」をあげる。

「行動力があるということは、受け身にならず、自分で進む方向を決めたら、そこへ向かって自分自身でいろいろな手段をとりながら進んでいけるということです。合格者には部活動や課外活動でも活躍した生徒が多くいますし、たとえば、農学部森林科学科に合格した生徒は、中学生の頃から自主的に校内の植物分布マップを作成していました」

また、一般選抜では余裕を持って合格できる学力を持った生徒でも、特色入試では不合格となる場合もあるとのことだ。

→ 指導のポイント

洛北高校で京大特色にチャレンジする生徒が多いのは、先輩たちが合格していることによる素地や、SSHの探究活動が入試でのアピールポイントにつながることで大きいとのことだ。

「本校では、先輩たちが合格してきたという下地・土壌があるため、『特色入試を受けたい』という気持ちが強い生徒が多いようです。また、SSHに指定されているため、カリキュラムをある程度自由に設定でき、探究に



「その違いは、動機の明確さにあることが多いと思います。特色入試に合格する生徒は、京大に行きたいという気持ちの強さだけでなく、大学やその先でやりたいことがはっきりしていますし、それを自分で突き詰めていくことができます。学力が高くても、学部・学科レベル、もっといえば研究分野レベルでやりたいことがはっきりしておらず、ただ京大に行きたいという意識で受験している生徒では厳しいと感じます」

さらに、「高校生ですから、京大の先生から見ればもちろん未熟です。面接などでそういう指摘をされたときに、へこたれないメンタルの強さや、すぐに切り返せる瞬発力がある生徒というのは、どんな環境に置かれても揉まれながら成長できると思います。そういうところも特色入試で見ているのではないかと考えています」と精神面の強さや、瞬発力といった点も重要だと指摘する。

時間を割くことができます。そこでの活動が発表やコンクールなどに出せれば、特色入試につながります。本校から継続的に特色入試合格者が出ているというのは、こうした学校の研究支援体制が非常に大きいと思います」

また、生徒への指導については、「理系志望者が多いこともあり、過去何人も指導してきている理科教員を中心に、志望理由を具体化していきます。生徒1名につき教員1名がついて個別指導を行い、やりたいことを問いつけ、どんどん深めながら言語化を進めることで、意志を明確にしていく指導を行っています」と語ってくれた。

Part.3 まとめに代えて

各種データから見る東大推薦・京大特色の特徴と一般選抜受験指導への示唆

河合塾Guideline編集部

> Point

- ✓ 一般選抜と比べ、地方出身や女子の割合が高い
- ✓ 将来のビジョンが明確で学修意欲や積極性の高い生徒が合格
- ✓ 大学で学ぶ理由が明確となり、受験勉強への意欲も向上

募集人員・志願者数・合格者数の内訳

募集人員は一般選抜に比べて非常に少ない
合格者は地方出身や女子の割合が高い

最後に、各種データから、東大推薦・京大特色の特徴を見ていこう。

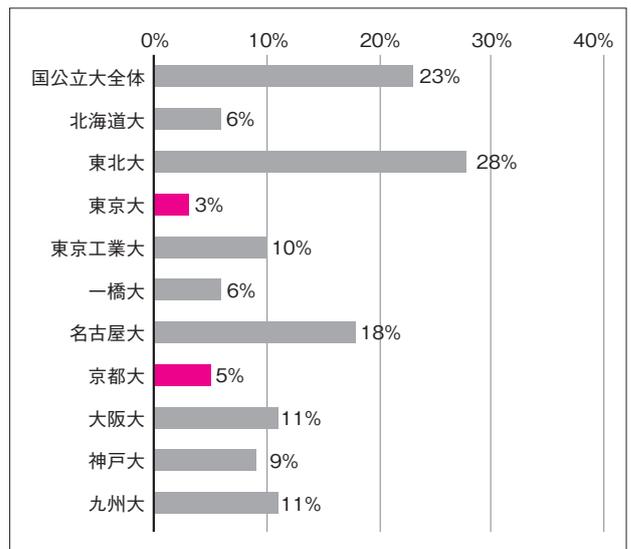
まず、各大学の募集人員に占める割合は、東大推薦3%、京大特色（後期日程の法学部を除く）5%と、他の難関国立大に比べて非常に低い<図表1>。

志願者数は、東大推薦は250人前後、京大特色は900人前後で推移している<図表2>。東大推薦の志願者数が2021年度以降に増加しているのは、1校当たりの推薦可能人数が最大4人、男女3人ずつへと緩和された影響である。

東大推薦、京大特色の導入理由の一つは、多様な学生を受け入れることにある。両大学の公表資料を見ると、<図表3>のように、一般選抜と比べて、合格者に占め

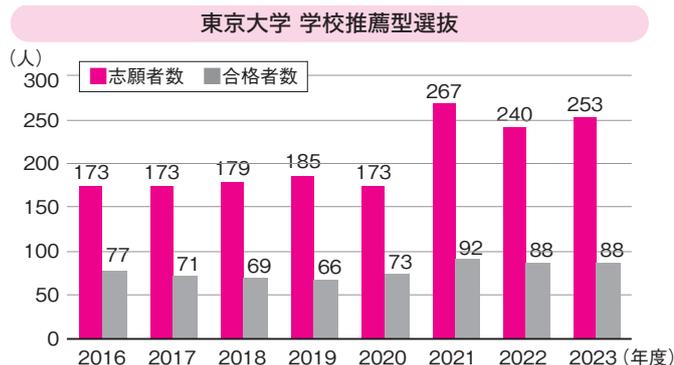
る地方出身者や女子の割合が高く、その目的は一定程度達成されている。

図表1 難関国立大の募集人員に占める総合型・学校推薦型選抜の割合（2022年度入試）



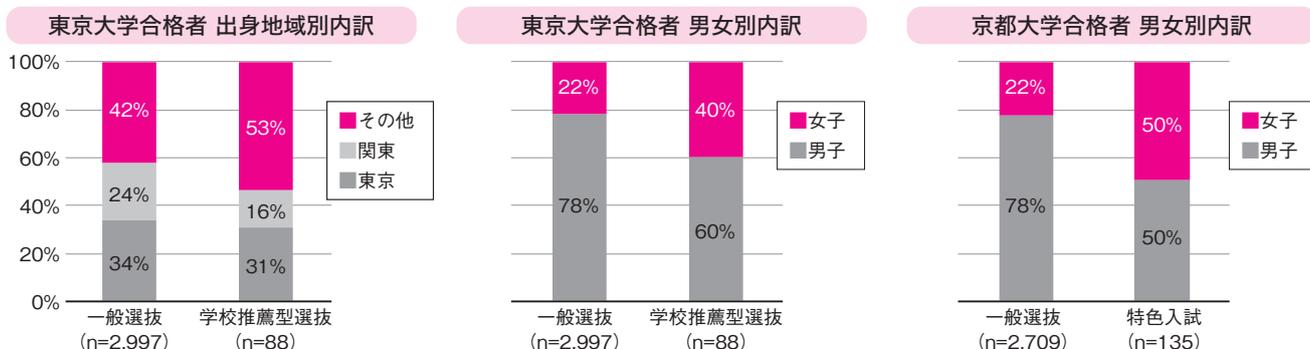
※河合塾調べ

図表2 志願者数、合格者数の推移



※東京大学、京都大学公表資料を基に河合塾作成

図表3 2023年度大学入学者選抜合格者の内訳



※東京大学、京都大学公表資料を基に河合塾作成

合格者の特徴

将来のビジョンが明確で 学修意欲や積極性の高い学生が多い

大学、高校へのインタビューからは、東大推薦・京大特色の合格者に共通する特徴として、次のものが挙げられた。

- 高校時代、興味・関心のあることに一生懸命取り組んできた経験がある
- 自分の学びたいことや将来のビジョンが明確である
- 学びに対する関心・意欲が強い
- コミュニケーション能力、積極性などが高い

まさに、両入試方式のアドミッション・ポリシーで掲げられている資質・能力や志向性を持った生徒が合格している。

大学入学後の様子については、「関心のある事項を中心に幅広く履修」「学外のプログラムにも積極的に参加」など、学修意欲の高さや活発さを感じさせられるエピソードが挙げられた。

ただし、一般選抜で入学した学生と、資質・能力には大きな違いがないとも語っていた。というのも、東大・京大では、一般選抜の受験者であっても早期から志望を固め、計画的に受験勉強などを進める傾向が強いようだ。また、両大学の合格者は中高一貫校出身者が多く、高校までに探究活動や課外活動にじっくりと取り組んできた生徒が多いことも特徴だ。一般選抜で課される高度な記述式問題に対応する学習も行うため、思考力・判断力・

表現力が鍛えられていく。

それらの影響もあつてか、東大・京大の合格者は「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」「構想力」などを中心に、非常に高い水準にある<図表4>。

東大推薦・京大特色への挑戦の利点

大学で学ぶ理由が明確となり 受験勉強への意欲も向上

4 高校の先生方へのインタビューからは、東大推薦・京大特色に挑戦する利点も見えてきた。

第一に、高校での探究活動や課外活動の取り組みやその過程で養われた資質・能力など、高校生活や生徒自身の強みを総合的に評価してもらえることだ。学業面での研鑽に加えて、探究活動や課外活動にも力を注いできた生徒にとっては、大きなチャンスといえるだろう。

第二に、東大推薦・京大特色の受験を通じて、生徒自身の興味・関心ややりたいことが明確になり、入学後の学びや学生生活の指針になることだ。出願書類の準備や面接等での大学教員との対話を通じて、自分がなぜその分野・テーマを学びたいのかが、これまでの経験や活動と関連づけながら整理、言語化されていく。これが指針となり、自由と自律を尊重する学風を最大限生かしながら、歩みを進めることができるようだ。

加えて、東大推薦・京大特色の受験を通じて、大学で学ぶ目的が明確になり、受験勉強へのモチベーションも高まる。そのため、たとえ東大推薦・京大特色で不合格になった場合でも、一般選抜での合格に向けて最後まで粘り強く勉強に取り組むそうだ。

出願書類の準備等を一般選抜に向けた学習と並行するため、生徒の負担を懸念する先生方も多い。しかし、生徒本人が出願を希望している場合は、出願先の学部への志望理由が明確か、探究活動や課外活動を通じて関心のあることを深めているかなどを確認したうえで、受験を応援していただきたい。

一般選抜志望者の指導への示唆

大学合格をゴールにするのではなく
学びたいこと、将来のキャリアを明確に

東大推薦・京大特色合格者の特徴として挙げた、将来に対する明確なビジョンや、学びに対する強い関心・意欲は、一般選抜で受験をめざす生徒にも求められるものだ。

ここで気になるデータがある。東大入学の動機<図表5>を見ると、「社会的評価が高いから」「難関を突破したかったから」といった理由も上位となる。

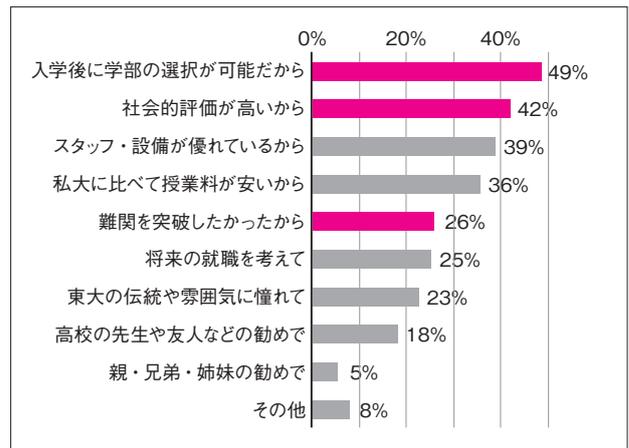
最も多い「入学後に学部の選択が可能だから」は、教養教育を重視する東大の特徴だが、学生によっては高校生までに学びたいことを十分に深めないまま入学していることの裏返しでもある。

河合塾では、これまで多くの東大・京大志望者を指導してきたが、将来の見通しを持たないまま受験に臨む生徒は、受験においても最後まで粘り切れない場合がある。また、入学後にも学びたいことが見つからず、東大の進

学選択（進学振分け）の際に苦心することも少なくない。冒頭でも触れた通り、東大推薦・京大特色の募集人員は非常に少ない。現時点で募集人員拡大の予定はなく、東大・京大志望者の大半は、今後も一般選抜での受験を第一に考えていくことになるだろう。

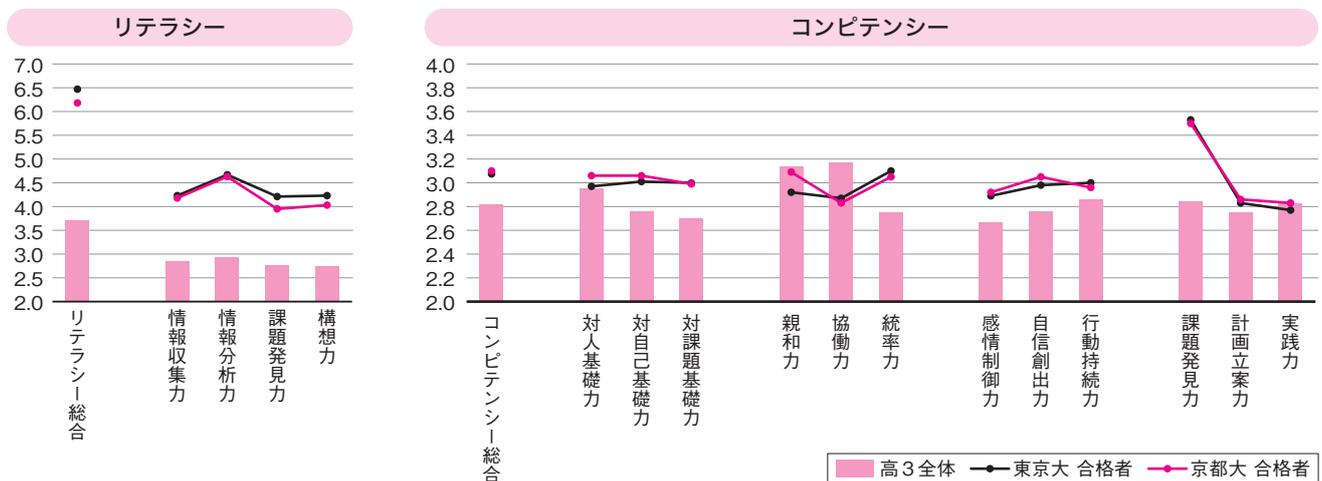
東大・京大の一般選抜は入試科目も多く、志望者に対する指導は教科学力の向上が中心になりがちだ。しかし、一般選抜の受験者も、東大・京大合格をゴールにするのではなく、大学入学後の学びや大学卒業後のビジョンを描くとともに、高校までに探究活動や課外活動に打ち込んできてほしい——東大推薦・京大特色の導入から、編集部はそうしたメッセージを受け取った。

図表5 東大入学の動機（3つまで選択）



※東京大学「2021年度（第71回）学生生活実態調査結果報告書」より

図表4 東京大学・京都大学合格者の資質・能力の特徴



※河合塾「学びみらいPASS」の結果より